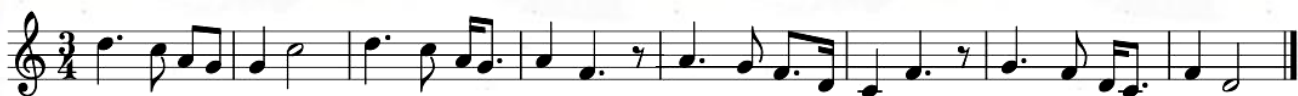


ジュラシック・トーク

合唱曲としての「くじゃく」

ハンガリーの作曲家コダーイ・ゾルターン (1882-1967) が作った『くじゃく』による変奏曲には、文字通り「くじゃく」というハンガリー民謡のメロディがテーマとして引用されています。その民謡は、ハンガリーでは広く知られたものだそうで、コダーイは 1930 年代にそれを採譜しました。それは下のようなものです。



Fölszállott a páva a vármegye - házra, Sok szegény legénynek szabadulá - sára. (原語)
か げをう つし 舞 い 降り し は 失 せし 希 望 を 捕 虜 の 頭 上 に (訳詞)
くじゃくが 役所の建物に向かって 飛んだ 全ての哀れな人の 自由のために (翻訳)

この民謡には、かつてオスマン帝国の支配下にあったハンガリー人の抵抗の姿勢が歌われているそうです。そして、コダーイと同世代のハンガリーの詩人アディ・エンドレ (1877-1919) はこの民謡の歌詞を最初と最後に引用した 9 節から成る詩を作り、1907 年に刊行された「地と金」という詩集に収録します。

1.

"Fölszállott a páva a vármegye-házra,
Sok szegény legénynek szabadulására."

「くじゃくが、役所の建物に向かって飛んだ
全ての哀れな人の自由のために」(引用)

2.

Kényes, büszke pávák, Nap-szédítő tollak,
Hírrel hirdessétek: másképpen lesz holnap.

繊細で誇り高いくじゃくよ、その羽根をギラギラと輝かせ
明日は全てが違って来るだろうと、みんなに教えてくれ

3.

Másképpen lesz holnap, másképpen lesz végre,
Új arcok, új szemek kacagnak az égre.

明日は全てが違って来るだろう、ついに違ってくるのだ
新しい表情、新しいまなざしで、天に向かって微笑みかけ
るだろう

4.

Új szelek nyögetik az ős, magyar fákat,
Várjuk már, várjuk az új magyar csodákat.

新しい風が、古いハンガリーの木々をざわつかせるだろう
私たちは、今新しいハンガリーの奇跡を待ち望んでいる！

5.

Vagy bolondok vagyunk s elveszünk egy szálíg,
Vagy ez a mi hitünk valóságra válik.

私たちは愚か者で、全てを失ってしまうのだろうか
あるいは、私たちの信念は実現するのだろうか

6.

Új lángok, új hitek, új kohók, új szentek,
Vagy vagytok, vagy ismét semmi ködbe mentek.

新しい炎よ新しい信念よ新しい鍛冶屋よ新しい聖人よ
あなたたちはまだ消えないでいてくれるだろうか

7.→8.

Vagy láng csap az ódon, vad vármegye-házra,
Vagy itt ül a lelkünk tovább leigázva.

古い役所の建物は、炎によって焼きつくされるのだろうか
あるいは私たちの魂は、奴隷のままなのだろうか

8.→7.

Vagy lesz új értelmük a magyar igéknek,
Vagy marad régiben a bús, magyar élet.

ハンガリーの言葉には、新しい意味が加わるのだろうか
あるいはハンガリー人の生活は、これまでと同じなのだろ
うか

9.

"Fölszállott a páva a vármegye-házra,
Sok szegény legénynek szabadulására."

「くじゃくが、役所の建物に向かって飛んだ
全ての哀れな人の自由のために」(引用)

9'.

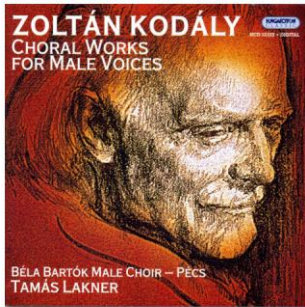
Fölszállott a páva a vármegye-házra,
Sok szegény raboknak szabadulására.

くじゃくが、役所の建物に向かって飛んだ
全ての哀れな囚人の自由のために

41歳で亡くなったアディの生誕60周年の記念年となる1937年に、コダーイはアディへのトリビュートとして、この詩をテキストにした「Fölszállott a páva (くじゃくが飛んだ)」という男声合唱のための曲を作りました。その際に、元の詩の第6節をカットし、第7節と第8節を入れ替え、第9節の単語を一つ変えました。もちろん、そのメロディは以前に採取したものが使われています。

そして、1939年には、アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団の創設50周年のために委嘱された管弦楽作品として、同じテーマがその変奏曲のテーマに使われることになるのです。それが、『くじゃく』による変奏曲です。さらに、1960年には、フォーライ・ミクローシュによって、混声合唱バージョンが作られました。

男声合唱版 (↓)



音源

混声合唱版 (↓)



音源

左の楽譜にあるように、かつて日本ではこの曲を原語ではなく、日本語訳で歌っていた時代がありました。その全体の歌詞はこういうものです。

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1. 影を映し 舞い降りしは
失せし希望を 捕虜の頭上に | 5. 愚かならば 祖国は滅び
わが望みも ただの夢か |
| 2. いまにかえず 白き孔雀
すでに來たる 今ぞ夜明け | 8. 新しき 言葉もなくば
わが悲しみ 果てしもなし |
| 3. 救いもなき 暗き谷に
新しき力 目覚めん | 7. 燃えよ人 やよ我に自由を
胸はふたぎ 声も出でず |
| 4. 古き木々も 若返らん
眠りより 醒めし祖国 | 9. 影を映し 舞い降りしは
失せし希望を かえず孔雀 |

かなりの意識ですね。この訳詞を作ったのは、作曲家の清水脩です。この民謡の、コダーイが採譜する前のオリジナルのメロディはどういうものだったのか知りたかったのでいろいろ探したのですが、見つかりませんでした。バルトークにもピアノ曲で「くじゃく」という曲はあるのですが (BB 80b/ Sz 66 タイトルは "Leszállott a páva")、それはコダーイとは赤枠内は似ているものの、全体としては微妙に異なるメロディ (耳コピ) でした。

